

86

特 255

33

男爵 井上清純閣下 講述

明 朗 會 講 演 集 第 四 號

明 朗 會 本 部



始



38  
4

時 255  
33

明朗會講演集 第四號

國史を貫く大精神 其の三

九月二十八日

男爵 井上清純閣下



一六合一都、八紘一字



本日は國史を貫く大精神といふ題目の續きであります。過日は神武天皇様の御話まで進んだのでありますが、まだ少し其御話が残つて居りますから、それを先づ申上げます。

「六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇と爲む」といふ神武天皇様の御言葉があります。是は神武天皇様が大和一圓をすつかり平定遊ばされてから下されました詔の中にある御言葉であります。天皇様が詔を下して曰く

「我れ東に征きしより茲に六年になりぬ。皇天の威を頼りて凶徒戮されぬ。邊土未だ清まらず、餘妖尙梗しと雖も、中洲地に復風塵なし。誠に宜しく皇都を恢廓め、大壯を規摹る

べし。而して今運屯蒙に屬ひ、民の心は朴素なり。巢に棲み、穴に住み、習俗惟れ常となれり。夫れ大人の制を立つ、義必ず時に隨ふ。苟も民に利あらば、何ぞ聖造に妨はむ。且た當に山林を披き拂ひ、宮室を經營りて、恭みて寶位に臨み、以て元元を鎮すべし。上は則ち乾靈の國を授けたまふ徳に答へ、下は即ち皇孫の正を養ひたまふ心を弘めむ。然して後に六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇と爲むこと亦可からずや。夫の畝傍山の東南樞原の地を觀れば、蓋し國の境區か。就て治めすべし。」

是が神武天皇様の御勅語の御一節であります。幸ひに「皇天の威を頼りて」と仰せられました御自分の力だとは仰せられて居りませぬ。天の道を體し、之を保護する爲に道に従はざるものを誅戮するのである。我が武は降魔の劍であるから、天祐と神助が加はり、國內を平定することが出来たと仰せられて居ります。天孫族の文化は非常に高かつたのであります。當時大和の住民は草昧に屬しまして、人々は孰れも混沌として理義を辨せず、そこで先づ第一に教化を盛んにせられまして、居住や風紀の上に一大刷新を御試みになつたのであります。「苟も民に利あらば何ぞ聖造に妨はむ」と、斷乎として舊來の陋習を打破すべく、先づ第一に皇都の造營を國家的に創められたのであります。特に紀伊の國の叡の川の上流に於て嚴肅莊重の典禮を整へられて山林を伐採せられ、其工事監督には天下の宰相天富命が任命せられ、結構莊嚴を極

めたものであります。今日普通に考へて居るやうな草昧な有様ではなかつたのであります。更に立后、立太子の禮等整然と完備し、日本文明の淵源久しい事を示して居るのであります。

尙鏡作りの末孫には鏡を造らせ玉造りの子孫には玉を造らせ、以て祖先の業を繼承せしめて練達を期する御方針でありました。其他鍛工、冶金、造劍、陶器等の工藝技術を教へ授けられ、就中農事を獎勵せられ、天富命と天白鷺命を穀物、麻、木綿等の植付け獎勵の爲に諸國に派遣せられて居る。又漁業は海國の立場に於て殊更力をお入れになりました。手置帆負命の子孫を擧げて獎勵の道を開かれたのであります。更に特記すべきことは、天皇の精神上の華とも申すべき御文藻に富ませられた事であります。天皇の御製としては歴史の傳へる以外にも定めし多くありになつたことと思はれますが、其格調の雄偉豊麗なる事は眞に驚嘆すべきものがあります。天下の民、聖徳を稱して、地は千尋の岩根の底に至る迄、天は高天原に至る迄も御徳の貫き在します。大君の九重の宮居は幾萬代も動かぬためし、其初の天下を知しめす神日本磐余彦火々出見天皇と御祝ひ申上げたのであります。

天皇様は治教の根本は天津神を祀り、報恩反始に在るといふ大御心に依りまして、御即位の四年春二月詔を下して曰く、

「我が皇祖の靈、天より降鑒りて、朕が躬を光し助け給へり。今諸の虜己に平ぎ、海内無

事なり。以て天神を郊祀りて大孝を申べ給ふべき者なり」

乃ち靈時を鳥見山の中に立て其他を號けて上小野榛原、下小野榛原といふ。斯くして皇祖天神を祭り給うたのであります。即ち國家的大儀式として鳥見山に靈時を設けられ、天富命が諸々の齋部を率ゐて三種の神器を正殿に齋り、天種子命が神前に祝詞を奏した。それは天照大神から此方傳へたる所の祝詞であつたのであります。其他朝廷の規模としましては可美眞手命が物部を率ゐて元帥の位置に就き、道臣命は久米部を率ゐて宮門を司つた。以上は祭祀と文と武に分れて最も樞要なる大臣でありました。其他夫々責任の職を分ち、威儀堂々たる朝廷の組織を整へて、斯くして天津日嗣の彌高き御位を示されたのであります。明治天皇の御製に

橿原のとほつみをやの宮柱

たてそめしより國はうごかず

此可美眞手命は饒速日命の御子様であります。饒速日命はやはり皇族でありまして、神武天皇よりも先に大和に御遣しになつて居つたのであります。此御方は神武天皇様の御東征に方りまして長髓彦を討ち平けて、國土奉還を爲された御方であるのであります。即ち饒速日命は長髓彦の御主人様であつたのであります。長髓彦は正統の天子様に對して認識が無かつた爲に、間違つてお手向ひ申したのであります。可美眞手命は神武天皇様に臣下としてお仕へ申上げ

まして元帥となられたのであります。明治天皇様に曾て侍講元田永孚先生が「日本の歴史に於て臣下としては誰方を御推賞遊ばされますか」と御尋ね申上げました時に、明治天皇様には直ちに「臣下としては可美眞手命が模範的な方であらうと思ふ」と御答になつたさうであります。そこに於て元田永孚先生が「如何にも今の陛下の御言葉は實に日本の歴史に通達した所の御言葉であつて、現今に於て可美眞手命に相當する人は無いやうであります。大久保甲東、西郷南洲のやうな方を二人合せたら、可美眞手命と同じやうにお仕へ申上げることが出来るではありません」といふやうな意味合のことを御答申上げて居るのであります。如何に可美眞手命が神武天皇の大功臣であつたかといふことが分るのであります。恰も桓武天皇に對する田村麻呂將軍のやうな又後醍醐天皇に對する大楠公のやうな御方であつたのであります。

神武天皇様の御大業は十代目の崇神天皇様の御代に於て完成したのであります。我國の歴史に於て先づ天孫降臨といふことが第一の維新であつたのであります。第二の維新は神武天皇様の御東征であり、第三の維新は大化の改新であり、第四の維新が建武中興であり、第五の維新が明治維新であつたのであります。此見解に依つて第二の維新であつた所の神武天皇の御大業は、十代目の崇神天皇の御代に於て、初めて目鼻が付いて完成したのであります。如何に長年月を要したかといふことが御分りにならうと思ひます。

(二) 天下大に平なり

日本書紀を読む者が誰しも氣付く所は神武天皇様を仰ぎ奉つて始馭天下之天皇と申上げて居ると共に、第十代目の崇神天皇様にも亦始馭天下之天皇の尊稱を奉られて居ることであり、本来から申したならば代々の天皇様は始馭天下之天皇と申上ぐべきでありまして、此尊稱は御二方に限られたものではありませぬが、神武天皇の御大業は崇神天皇に至つて一先づ完成を見、皇基を彌が上にも確立せられ、永く偉績を遺し給ふた爲であると申さなければなりません。此始馭天下之天皇といふ言葉はどういふ意味であるかといふと、此國は全世界に於て最初の國であるといふことであります。人類が國を成した一番古い國であるといふことであります。始馭といふのは肇國と書きますけれども、實は初めの國と解釋するのが本當のやうであります。それが事實であらうが、事實でなからうが、斯くの如く吾々の祖先は信仰して居つたのであります。さうして此初めの國を知しめす所の天皇といふことを、始馭天下之天皇と申すのであります。

其意味を別の言葉で申上げたならば、代々の天皇様は直接に天照大神様の精神を承け繼がれて立たれた御方であるのであります。それ故に個々別々にお立ちになつて居りますけれども、

直接には初めの天子様であるといふのであります。そこは非常に面白い所でありまして、皇祖皇宗の遺訓に違はるゝことは申す迄もないことでありますけれども、皇祖皇宗の御遺訓の一番本は何處に在るかと言へば、天照大神様の御遺勅にあります。それ故に天照大神様の御精神を直接に承け繼ぐといふことが、即ち歴代の天皇様の御遺勅を承け繼ぐことになるのであります。日本の天子様は唯古い昔からの仕來りのみを御引繼なさるばかりでなく、それは根本的には變らぬのでありますけれども、時、所、位に依つて巧みに新しき運用が起らなければならぬのであります。それ故に我國の文化は最も古くして日々維れ新たなりで、實は毎日維新でなければならぬ。是が停滯しますると殊更に大きな維新といふものをやらなければならぬのであります。そこで日本の國柄からいふと、常に御維新がなければならぬ。毎日のやうに御維新がなければいけないのであります。併ながら躰道の方は變らない、躰道、用道とありますが、此本来の道たる躰道の方は變らない。唯時、所、位に依つて運用する方面即ち用道の方は變らなければならぬ。さういふ意味が此始馭天下之天皇といふ御言葉の中にも含まれて居るのであります。

崇神天皇様が御即位の後四年十月に司牧人神の大詔といふものを漢發せられて居ります。其大詔には

「惟れ我が皇祖、諸天皇等宸極を光臨し給ふ事は、豈一身の御爲のみならんや。蓋し人と神とを司牧へて、天下を經倫め給ふ所以なり。故に能く世々玄功を聞き、時に至徳を流き給へり。今朕大運を承け奉りて、黎元を愛育す。何にしてか皇祖の跡に非べ違ひ、永く無窮の祚を保たむ。それ群卿百僚爾等の忠貞を竭して、共に天下を安んぜむこと亦可からずや。」

とございます。

こゝに人と神とを司牧するといふのはどういふ意味であるかと申しますと、天皇が現人神として知しめさるゝのは現在の臣民だけではない。臣民の祖先たる八百萬神迄も統べ祭り給ふのでありまして、即ち祭政不二の大義を宣明し給ふたものなのであります。さうして崇神天皇は天社、國社の制を定め、神地や神戸を置き給ひて、神社制度と共に臣民に經濟的實力を與へられたのであります。此天社といふのは皇室に關係深い神代からの神々の社であります。國社といふのは従來の豪族に依つて祀られて居た社でありまして、是も共に統制せられて朝廷で御祭りになることになりましたことは、後に功勞ある神社にも人臣と同じく位を授け給ふことになつた所以であります。神地といふのは後世の神領でありまして、神戸といふのは神地を耕作したり或は神社に奉仕をする人民を指すのであります。今の神戸は其名が遺つたものであります。

此大詔發の後二年に、天照大神宮の御身體たる神鏡は、叢雲の御劍と共に宮外に遷されまして、皇女豐勳入姫命に託して、大和の笠縫邑に祭らしめ給ふたが、後第十一代垂仁天皇の第二十五年に皇女大倭姫命が神鏡神劍を奉じて、之を伊勢國度會郡五十鈴川の上に祭り給ふことになりました。即ち今の伊勢神宮であります。其後景行天皇の第十九年に至りまして五百野皇女の派遣となり、斯くて皇女派遣の御事は奈良朝平安朝を通じて鎌倉時代に及びまして、後醍醐天皇の皇女祚子内親王を第七十二代の齋王として奉仕せしめ給ふ迄、連續絶ゆることはなかつたのであります。齋王七十二人中五十五名迄は、天皇の皇女たる内親王であり、十七名は親王の女たる女王でありました。齋王は未婚にして初め齋院にて約一年禊祓を行はれ、更に皇城外宮の河にて一年間禊祓を行ひ給ひ、後伊勢に奉仕せられしものであります。概ね十歳前後にて拜仕せられ奉仕年數長きは三十七年に及び給へるものがありました。斯くの如く伊勢神宮の御創建は崇神天皇の大御心に出でたものと申さなければなりません。又神鏡と共に初めの間は伊勢に奉齋せられました叢雲の御劍は、第十二代景行天皇の御代に日本武尊が蝦夷征討に付て神宮に詣り給ひし折、御姨大倭姫命之を尊に授けさせ給ひ、尊は叢雲の御劍に依つて東夷の難を免れ給ひ、後薨去の少し前に之を尾張に奉安し給ふたのであります。それが今の熱田神宮の起源となつたのであります。叢雲の御劍で以て草を薙ぎられたといふのではないのであり

まして、叢雲の御剣は守り太刀なのでございまして、他の兵士達が草を薙いだのであります。今も草薙といふ所がありますが、其處が當時さういふ事が行はれた遺跡だといふことであります。それ以來叢雲の御剣は草薙の御剣といふ名に變りまして、熱田の神宮の御神體となつたのであります。それ迄は御鏡も御剣も共に伊勢大廟に奉安されて居つたのであります。元來三種の神器は離すことの出来ないものでありまして、別々にお祀りをしないのが本當であります。それ故に今でも熱田神宮には御鏡も祭られて居るのであります。明治天皇様の御製に

まつらはぬ熊襲たけるのたけきをも  
うち平げしいさを雄々しも

此神鏡と神劍の奉遷と同時に崇神天皇様は神鏡、神劍を模造せられました、宮中に安置せられ、八坂瓊勾玉と共に之を三種の神器とし給ふたのであります。それ故に勾玉だけが本當のものであつてあとは模造であつたのであります。其中で神鏡は特に賢所に奉齋せられました、此處を又内侍所とも申上げて居るのであります。御歴代の天皇様は平生御髮の鬘を外し給はず、又御足を賢所の方に向け給はず御崇重遊ばされて居られるのであります。

茲で申上げますが、八坂瓊勾玉が安徳天皇様と共に一度は壇の浦の浪に沈んだのであります。其浮び出たのを京都に奉還致し

まして、初めて真正の勾玉が京都に還つた譯であるのであります。

天皇即位の後十年七月詔して、「民を導く本は教化に在り。今既に神祇を禮ひて災害皆耗きぬ。然るに遠荒の人等猶正朔を受けず。是れ未だ皇化に習はざるのみ、それ群衆を選びて、四方に遣はして朕が憲を知らしめよ」と仰せられました、四道將軍の簡拔となつたのであります。さうして此四道將軍に印綬を受けられました、「若し教を受けざる者があれば兵を擧げて討て」と聖旨を含めて鹿島立ちせしめ給ふたのであります。此四道將軍の詔に示された「教化」の二字こそ、實に御歴代天皇様の國內統一の強い基調であります。又對外政策の根本方針であつたのであります。唯徒に敵を征伐するとかいふことが天皇の知しめすといふことでなくして、教化が一番先に行くのであります。それ故に今や北支那が段々治安の維持が出来ると同時に、教化といふことが最先に起らなければならぬのであります。

唯皇道を理解し得なかつたものに對しては景行天皇の御代日本武尊の西征東伐となつたのであります。斯くして四道將軍の足を印する所、何れの地方でも何等の抵抗なくして歸服しました。例へば但馬の出石に早く移住して居た朝鮮からの歸化族である天日槍一族の如きも、其神寶を天皇に献じ奉つて、國造の一人となつて居ります。國造といふのは縣知事のことでありませす。斯くして神武天皇以來の國內統一が、崇神天皇の御代に至つて一先づ完成し、御威徳は海

外に及びまして、南朝鮮の任那國に日本府を置くに至り、日韓一域の復元に對しまして一步を進められた次第であります。こゝで復元といふ言葉を用ひて居りますが、素盞鳴尊様から朝鮮は我國の内へ入つて居つたのであります。それ故に復元といふ言葉を使つたのであります。崇神天皇の御代に於て再び朝鮮がしつかりと我が領土となつたのであります。當時大迦羅國より日本政府に提出した文書に依りますと——大迦羅國といふのは今の滿洲の地方であります——南國國境の繋争地帯を改めて母國日本の直轄に變更し、南鮮全部に平和の基礎を置くの大方略であつたのであります。向ふから母國日本といふ言葉を使つて、さういふことを申出て居る書類が遺つて居るのであります。是は歴代對韓統治關係を物語るものでありまして、天皇の宸襟茲に於て初めて安んじ給ふたのであります。そこで四道將軍が凱旋した翌十二年三月の詔に「官に廢れることなく、下に逸民なし、教化流行れ、衆庶業を樂む。異族譯を重ねて來り、海外既に歸化せり」と宣せられて居ります。而して戸籍に依り長幼の次第と家屋の先後等を校へ、男子には弓弭の調、女子には手末の調を課せらるゝこととなつたのは、我國に於ける税制の初めといふべきであります。男子は山の幸、海の幸を採つて國家に献上するのであります。婦人は手末の調といつて手先の工藝品を國家に献上して居つたのであります。それを國家の制度となされたのであります。無論國民が朝廷に調物を上つて居つたのは神代からの事ではありますが、

天皇はそれを定制と爲されたのでありまして、そこに國家の秩序が整ひました。さうして財政が鞏固となり得たのであります。天皇は又諸國に狭山池、依網池、刈坂池、反折池等の色々の池を堀らせられました。灌漑井とされたのであります。尙交通の施設及び船舶を造らしめられましたのでありまして、日本書紀には「天神地祇共に和享みて、風雨時に順ひ、百穀以て成り、家給し、人足り、天下大に平なり。故に稱して御肇國天皇と申し奉る」と記して居ります。

明治天皇の御製に

石上ふることぶみをひもときて

聖の御代のあとを見るかな

崇神天皇様のことに付きましては、今迄歴史家が閉却して居つたのであります。先年メーソンといふ亞米利加人が來まして、非常に神道を研究して崇神天皇を光顯し奉つた。亞米利加人から注意を受けて初めて崇神天皇の崇敬會といふやうな會も出來たのであります。今申上げたのは其一端であつて、神武天皇の大業は崇神天皇に於て完結されたといふことであるのであります。此メーソンといふ人は如何なる人であつたかといふと、どうも猶太の人らしい、此人は何故に日本の神道を研究したかといふことが大に疑問であります。何かそこには曰くがあると思ひます。而も彼の研究は本當の神道には達して居らぬやうであります。それを日本の學者な



どが餘り大騒ぎをするといふことは考へ物であります。併し兎に角崇神天皇を光顯した功績は没すべからざるものがあるのであります。

日本書紀などは非常に難しく書いてありますし、普通の歴史と時代が離れて居りますので、一寸御聴きになつても興味をおひきにならないかも知れないけれども、少くとも日本精神を見るのには、崇神天皇様の事を申上げなければならぬと思ふのであります。

### (三) 千古の偉聖

大化の改新は中大兄皇子の御力でありましたが、其御理想は聖德太子に端を發して居ります。推古天皇の御代に於ける國際關係はどうであつたか、國內事情は如何であつたか、當時支那に於ては隨が新に南北朝を合せまして大帝國を築き上げ、其領土は餘程廣いものであつたばかりでなく、其文化といひ、武力の點に於ても富強天下に列ぶものはなかつた。其隨を隣邦に控へて、日本の國情は如何かといふに、當時の人口は支那の四千六百萬人に對しまして僅かに六百萬程度に過ぎなかつた。而も太子出現前に於ては君臣の關係素れ、今日の如く内外の別、華夷の辨も明かでない——華夷といふのはどちらが文明であるか野蠻であるかといふのであります。其華夷の辨も明かでない、國內は皇室の下に完全に統一されない。強大の民族四方に割據

し、弱者は次第に強者に併合せられ、物部蘇我兩氏の對立となり、遂に蘇我氏の爲に物部氏は滅亡し、蘇我氏の勢力は其財力に於きましても、兵力に於きましても朝廷を凌ぐ情勢となつた。而も國內特に奥羽地方未だ皇澤遍ねからず、斯る國情に於て、大陸文化が充實したる國力を背景にして澎湃として日本を襲つて來たのであります。一度取捨選擇を誤らんか、文化的に彼に征服せられて了つたであらう。當時の日本は現今に倍加するやうな國難が内外に迫つて居たのであります。斯る非常時難に際しまして、千古の偉聖、聖德太子が皇統の御直系から御出現遊ばされ、十九歳といふ若い御年で攝政の位置にお坐りになり、國政改革の大目的に邁進せられたといふことは、誠に有難き一大因縁と申さなければなりません。聖德太子は如何にして此内外の國難を克服されようと爲さつたか、今日の國難を打開する上に於きましても、太子の御偉業を仰がなければならぬと思ひます。抑々天皇の御稜威は太陽の如く平等に國民の上を照し給ひ、一致和親の國民は萬世一系の天皇を中心として統一し、上下の間には何物も介在して之を隔つることを許さぬのが、國體の精華でありました。

斯くして上代の氏族は平等無差別に一意天皇に奉仕したのでありますが、それがいつとはなしに氏々の間に階級を生ずるに至り、是等の閥族が政治の樞機を握るやうになつたのみならず、遂に皇位繼承問題に迄、容喙し其勢力は皇室をも凌ぎ奉るに至り、又地方に於ては連、國造、

縣主アサノなどの豪族が中央の命令を奉せず、勝手に土地人民を私有し、私利を圖るやうになつたのであります。元來國造といふのは地方官でありますのが、何時の間にか封建制度と同じやうな姿に變じ、隨て國民も閥族あるを知つて皇室あるを忘れ、一身の榮達と利己の爲には甘じて權勢の前に屈し、君臣の大義沮喪して無氣力になつて了つた。當時大陸より多數の學者、藝術家、僧侶が相踵いで來朝し、我國の文化の指導者となるに及びまして、彼の國の革命的氣分の中に養成された支那思想は、我が傳統思想を擾亂し、加ふるに支那朝鮮を経て到來せる印度思想は、我が民族信仰に一大衝動を惹起し、政治上の勢力争ひと關聯しまして、蘇我、物部二大豪族の抗争となり、總て蘇我氏の獨り舞臺となりまして、遂に天人俱に許すべからざる有史以來未曾有の大逆罪を敢てし、我が尊嚴なる國體に拭ふべからざる一大汚點を印するに至つたことは、洵に嘆かはしき次第であります。

内に於て既に斯くの如く無統一顛倒せる状態でありますから、外に向つて國威の上がる道理はありません。既に崇神天皇以來確立せる任那の日本府は欽明天皇の二十三年遂に新羅の爲に滅亡の形となりました。我が國威は全く地に墜つるに至つた。是が聖德太子御出現前後に於ける悲しむべき我國の状態でありました。太子は御順位から申したならば用明天皇に次いで皇位に即かせらるべき御方であつたが、當時の權臣蘇我氏は皇太子の聰明を憚り崇峻天皇を擁立

し率りて、外戚として益々權威を専らにせんとしたのであります。然るに天皇は閥族を制して皇政を恢復せんとせられ、太子と靈犀一點相通するものがあらせられたことは、馬子の全く意外とする所でありました。天皇は馬子の專横を太く憤らせ給ひ、「天神地神、君臣の分は自ら定まる、今馬子私慾を恣にす。假令佛教興隆の功ありと雖も、和順忠義の情なし」と宣ひ、馬子は天皇の御激怒が深く其身に及んで居ることを知つて失望懊惱の日を送るやうになつた。天皇俄かに崩御せられますや、馬子は天皇の御遺命と稱して、新羅を征伐致します爲に九州に止まつて居りました將軍達に對して、一意外征の途に従ふやうにと慰撫し、一方東漢直駒トウカンチクマ、是は漢人の子孫でありますが、此の者の首を刎ねて、一切の證據を湮滅し、事件は闇から闇に葬むられ、宮臣共悉く馬子の前に膝を屈し、完全に箝口されて了つて居たのであります。馬子が其張本人たることは、勿論後の人の追記でありまして、其真相は當時決して表面に現はれたものではなかつたのであります。當時國民の思想も太く廢頽して居つたのでありますから、若し輕舉して討伐一度破れたならば、皇室の御運命をも危くし奉る虞が多分にあつたのであります。翻つて目を海の外に放つたならば、隨の支那統一の餘威は直接皇國を脅威し、征羅の軍隊は九州に集結して居た。太子は當時弱年の一皇子として江戸時代の儒者が言ふやうに、直に馬子討伐の師を起すなどといふことは、事實不可能の事でありました。太子は之を思想上及び社會

の組織上の内外の根本から建直しをした後でなければ、其目的を達し難きことに着眼せられました。惜むらくは太子の鴻業未だ半ばならずして薨去になり、其御理想の第一である精神的統一を爲されましたけれども、政治上社會上の大革命は見るに至らなかつたが、山雨來らんとして風堂に滿つるの慨があつたのであります。それ故に太子攝政に御就任せらるゝや、東漢直駒の一族に不赦を科して峻烈なる態度を示され、又馬子の舉動にも不斷の監視を怠り給はずして、内治に外交に意の儘に行はれ、馬子は太子の前に盤伏する外はなかつたのであります。

#### (四) 開國進取の國是

日本の國是は開國進取であります。聖徳太子が佛教を取入れられたといふことは怪しからぬことだといふ考を持つて居る人がありますけれども、それは間違ひであります。聖徳太子の御偉業を稱へまつるに付て注意すべきことは、御事蹟を通じて其御心が何處に在つたかといふことを知ることが、根本の問題であると思ひます。太子は攝政として天皇と同じ大御心に起つて居られたといふことは申す迄もないのであります。其大御心其ものが國家の全部であります。然るに拘らず太子に就きましては兎角の論議が行はれ、特に徳川時代の國學者、神道家、儒者の中には往々面白からざる説を爲す者がありますが、眞に畏れ多い次第であります。先年陸軍

政務次官をして居つた某代議士は聖徳太子を誹謗した爲に、國民から太く攻撃を喰つたことがあります。今日識者階級の中に於て太子を正當に觀て居る人は極めて少ない、それは佛教に對する所の偏見から來て居る。殊に愛國團體が太子を正解しないのであります。洵に嘆くべきこととであります。思ふに太子が我國佛教興隆の本を開かれた御方であり、彼の有名な十七條の憲法第二條に「篤く三寶を敬へ」とありまして、我國古來の神祇尊重に關する言葉が表面に現はれて居ないといふやうなことが原因となつて、排佛家の間に問題とせられて居るやうであります。あの憲法にお示しになつて居ります精神を深く拜察致しますると、其奥に如何に國體に即した大精神が潜んで居るかといふことを拜察するに難くないのであります。第一條に「和を以て貴しとなし、忤ふことなきを宗となす。人皆黨ありて違れる者少なし。是を以て或は君父に順はず、乍ち隣里に違ふ。然れども上和らぎ、下睦びて事を論ふに諧へば、即ち事理自ら通ず、何事か成らざらむ」

是こそ日本精神で惟神の道に外ならぬのであります。憲法全體の大精神を冠冕として冒頭に掲揚遊ばされたのであります。畏くも天照大神が皇孫に賜はりし御神勅に「皇我が珍の御子、皇孫の命、天つ高御座に座して天津日嗣を、萬千秋の長秋に、大八島豐葦原瑞穗國を安國と平けく治ろしめせ」との大宣言の旨を承けられて、「和を以て貴しとなす」と仰せられたのであり

ます。御神勅の意味を碎いて申したならば、日本を中心にして人類社會に眞箇の平和をもたらし、眞正の文明を打建てるといふことでもあります。之を「安國と平しく治しめせ」といふ言葉で現はされて居るのであります。聖徳太子は此意味を「和を以て貴しとなす」と説かれて居るのであります。公正清明にして洪大無邊なる日本精神の表現であると共に、一般に繼續遵奉すべき人類究竟の目的であります。人類究竟の目的は縮めて言へば世界に大平和を齎らし、理想文化を打建てることに外ならないのであります。

當時の内外狀勢から推し測りまして、太子が儒佛の眞髓を取入れ、之を日本の國體の上に具現せられる爲に如何に高遠なる大御心に依つて、非常なる御努力を遊ばされたかといふことは拜察するに餘りある次第であります。當時太子が封建的制度の下に氏族が樹立して互に抗争し合つて居た容易ならぬ情勢下に於きまして、佛教の高遠なる思想を取入れて、個人主義の人生觀を一掃し宗教、道德、哲學を基調とする健全なる精神文化の樹立に依つて、國民の思想を統一し、日本興隆の基を開かれたことは、丁度明治天皇が明治維新に當り開國進取の方針を採られ、廣く知識を世界に求め給ひ、歐米の文物を採用せられて、鎖國日本を世界の大日本たらしめし基礎を開き給ひしことと眞に相似たるものがあります。是は日本の一貫した國是から來たものでありまして、太子が勝手に好めるものを採られたといふのではなく、深く國是に基き佛

教文明を採用せられたと斯様に考へる次第であります。

それを明治開國の精神を知らずして只管に歐米文物に心酔し、遂には國體を忘れて日本人たるの精神を失ひ、今日のやうな個人主義の世界觀を増長せしめ、極端なる行詰りや難局を招來したからと申して、其罪を明治開國が誤つて居たと断定するものは、恐らくはなからうと思ひます。「知識を世界に求め、大に皇基を振起すべし」とあります通り、知識を世界に求めるといふのは、大に皇基を振起せん爲であります。太子は爰に深く御心を留められ、憲法第一條に肇國の理想を高く掲げられて居る次第であります。

而して日本精神は自我を捨て、他と和合するにありますが、他といふのは社會黨でも共產黨でも何でも宜しいといふ意味ではありませぬ。正定聚（せいぢょうく）を指すのであります。正定聚といふのは正義の團體といふ事でありまして、既に我國は一つの正義の團體であります。之を大和國といふのであります。國と申しましても共產主義の國もあり、無理想の國もあります。是等は正定聚とは申されません。日本は一大正義の團結として異體同心なるべきものと御考になつて、それ故に第二條が出て來るのであります。「篤く三寶を敬へ」と仰せられたのは、之に依つて人心、國情の枉れるを正さんが爲であります。絶對の眞理に歸服する者でなければ正定聚の中には加はることが出來ない。日本國民の中に入れることが出來ないのであります。「それ三寶に歸せず

んば何を以てか狂れるを直さん」と仰せられた。佛法といふのは太子の御言葉を藉りると、「四生の終歸にして萬國の極宗なり」と仰せられた。四生といふのは人類ばかりでなく動植物魚介に至るのであります。終にそれ等の生きとし生けるもの悉くを救ふ所の教である。四生の終歸といふことは、さういふことであります。又萬國の極宗といふことは萬國の國民悉く手を合はすべき教であるといふことであります。即ち生きとし生ける一切衆生を救済して、最後の安心を與へ、世界何れの國をも指導して理想なき國家には理想を與へ、狂れる國家は之を正道に復すといふ宇宙の最高眞理を教へたものであると考へられて居るのであります。此の天地の公道其儘が現實に具現せられて居りますが、日本國の惟神の姿でありまして、日本國は佛教に依つて益々昌へ、教は日本國を得て益々其光を發すべきものとせられ、日本を大乘相應の地と呼ばれたのであります。大乘といふのは、大きな乗物に譬へて如何なる者をも其車に乗せることが出来るといふ所から、大乘の教といふのであります。そうして大日本國は其大乘の教に相應する所の國であるといふのであります。で國と教と人とは離すことの出来ない關係を持つて居りました、是は非常に大切なことであります。西洋人は國を離れて教があると考へて居るのであります。殊に猶太民族は國を有たない民族でありますから、さう考へて居る。併ながらそれは間違ひでありまして、國家其ものが人類の文化であるのであります。國家を離れて文化を

建設することは斷じて出来ない。將來は是が一つの國にならうとも國を離れて人類の文化、隨つて教といふものは存しないのであります。それ故に單なる修養團といふものは役に立たない。教を説く時には必ず國が出て來なければならぬ。人は教なかるべからず、其教といふものは國から離れて存在することが出来ない。人も亦國から離れて存在することが出来ないものであります。日蓮上人の言葉に「國は法に依つて昌へ、法は人に因て貴し、國亡び、人滅せば、佛をば誰か崇むべく、法をば誰か信ず可き哉、國家を祈りて須く佛法を立つべし。」と申されて居ります。此國と教と人との關係を最も明哲に説いて居るのであります。それ故に佛教といふものは超國家的な教であるなどと考へたならば非常な間違ひであります。釋尊は大國家主義、君主主義、萬世一系天皇主義の御方であります。是は段々佛教の方に入つて話を進めて行けばお分りになると思ひます。餘り長くなりますから時局の問題に移ります。

#### 附 支那事變を繞る列國の動向

此前にお話ししましたことを成べく除いて、まだお話ししない所を申し上げようと思ひます。支那事變は其原因遠く華盛頓會議、倫敦會議に發して居るのであります。尙週れば明治維新に發源するとも申すことが出来るのであります。明治御一新は申す迄もなく天照大神様の肇國の御神

勅に發して居るのであります。即ち今回の事變は皇國の天職に淵源して居る事であるとも考へるのであります。第七十二回帝國議會の開院式に方りまして、優渥なる御勅語を拜したのであります。それは宣戰の御詔勅に代るべき最も森嚴莊重なる御勅語であつたのであります。聲淚共に下るの愴があつたと申上げても宜い程長い極みであつたのであります。陛下は皇太子の御時分に、杉浦重剛先生が「論語の中に「任重く道遠し」といふ言葉がありますが、恐れながら殿下は之を如何に解釋遊ばされますか」と御問を發しました時に、殿下はお若い時でありましたが即座に御答へになつて「我國の正義を四海に布くといふ事は、如何にも任が重くして道遠きものがある」と仰せになつたさうであります。實に我國の理想を論語の言葉を藉りて仰せになつて居ることは畏き極みであります。それ故に陛下は名のない戦ひは斷じてお許しになりませぬ。まつらはぬ民をまつろはせる爲に己むを得ず涙を振つて降魔の劍を耀し給うたのであります。

明治天皇様が明治元年三月十四日に億兆安撫國威宣布の御宸翰を國民一般に賜つて居りますが、其中に「今般朝政一新の時に方り、天下億兆一人も其所を得ざるときは朕が罪なり」といふ御言葉があります。即ち天皇様の御天職は、老若男女をして其の所を得せしむるといふことでもあります。恰も太陽が萬物を生成化育するといふやうに、大きな杉の木も小さな螢草も太陽

は萬遍なく平等に光熱を與へて、一方は天を摩す大木となり、一方は地に匍ふ螢草となつても、皆其の所を得て天地間に於て嬉々として生を樂しむといふことが、天皇の御理想であるのであります。之を知しめすと申上げて居ます。否な日本臣民ばかりでなく、萬國の人に其の所を得せしむる。之を古來漂える國を修理固成と申して居ります。其爲には遂に降魔の劍も揮はなければならぬことにもなるのであります。斯くの如き大理想の下に國が開かれたのであります。中世以降、保元・平治の大亂以後源賴朝が幕府を鎌倉に築きまして七百年の間は、武家の政治とはなつて了つたのであります。就中徳川三百年鎖國の間は出ることも入ることも禁じたのであります。出て成功した者も家族を呼寄せすることも出来ないやうになりましたから、今日南支、南洋到る處に日本人の遺跡はあります。墓も多數存在して居りますが、一人も大和民族の子孫が残つて居りませぬのは、斯の如き苛酷なる鎖國制度の然らしむる所であつたのであります。我が大和民族が長い間昏々として眠りに陥つて居る間に世界の地圖は如何に變更せられたか、世界大陸の九分の八は世界人口の四分の一に過ぎない所の白人の侵略占領する所となり、僅かに支那だけが最後の分割地方として残つて居るのみであります。明治初年に於きましては我が領土であつた所の千島も樺太も何時の間にか露西亞に奪はれ小笠原諸島の中の父島や沖繩の那覇にはベルリの艦隊の爲に亞米利加の國旗が飄つて居つたのであります。ベルリ

の艦隊は平和通商を求むるにあらずして、彼は我國を攻略せん爲に來たのであります。其證據は彼が米國本土を出帆する時に豪語して曰く、「此行が大日本國を必ず攻略して見せる」と言つたといふ點に於きましても明かであります。それが後に英國の抗議に依りまして那覇と父島から亞米利加國旗を引下ろして了つたのであります。此時に明治維新が完成しましたたが、明治天皇は太く此情勢を御軫念になりました、國內の統一を策されました、大いに國內を改められました。其後征清の役となり、支那から朝鮮を獨立せしめ、續いて三十七八年には征露の大戦となつて、露西亞から滿蒙の地方を支那に返さして了つたのであります。其中に歐洲各國は最早世界に分割する所が無くなつて了つたから、仲間喧嘩を始めまして歐洲大戦争となつたのであります。我國は日英同盟の誼に依りまして、英國方に加擔し、英國の大艦隊は太平洋、印度洋、阿弗利加から皆本國に引上げた後を承けて、驚くべき廣大な海面を我國の艦隊が代つて防護し、さうして印度から、濠洲から彼の兵隊を護送したのであります。若しも我國が英國方に加擔しなかつたならば、青島に居りました所の獨逸の東洋艦隊が直ちに英國の海外の地を皆奪つて了つたらうと思ひます。米國も大戦に参加は六ヶ敷かつたであらうと思ふ。然らば歐洲の大戦は獨逸方が勝つて英國方が負けたと見る可きでありまして、此點に付て我國は非常な功勳を成したものであります。尙地中海にも水雷戦隊を出しまして働いたことは御承知の通りであります。

此大戦争は物質的の戦争であつて一つの藝術的の意味を持たない。日本の川中島の戦ひは藝術的の戦争でありますが、歐洲の五箇年の戦争は物と物との戦ひであり、物の消耗であります。三千億萬圓といふ驚くべき財を失ひ一千萬人の人を殺して了つた。數世紀掛つて世界から搾取した所の富は大部分此時に消費して了つたのであります。さうして獨逸の陸海軍は最後迄負けなかつたのであります。倫敦タイムスのノース・クリフ——是は猶太人でありまして、恐しい宣傳の名人でありまして此人が飛行機の爆弾に代へて宣傳ピラを獨逸の塹壕や艦隊の兵士達に撒いた。その上にレーニンやトロツキーの輩が獨逸國內に入込んで、國民を赤化したのであります。それから、國民も軍隊も一朝にして崩壊し、最後の五分間に於て獨逸は破れて了つた。さうして獨逸の全権は巴里の講和會議に呼出されまして、海外の領土は全部召上げられ、國內の石炭や鐵礦の産地は悉く奪られて、何千億馬克といふ莫大なる償金を課せられ、獨逸六千三百萬人の中三千萬人は喰ふことも寝ることも着ることも出来ないやうになりました、さしにも榮へた所の獨逸帝國も爰に崩壊をして了つたのであります。

而もカイゼルは早くも和蘭に蒙塵し、政治は社會民主主義の個人的な政治家に依つて支配せられ、獨逸民族の前途には少しの光もなければ又國家としての希望も持ち得なかつたのであります。ドイツ社會は道德の頹廢に陥りまして、男女共眞裸體でカフェーに晝日中から出入する

といふやうな恐しい墮落した社會が現出したのであります。戦前獨逸の二馬克は日本の一圓と交換が出来たのであります。大正十二年頃になりますと、日本の一圓に對して二萬三千馬克を以てしなければ換へることが出来ないといふ位に、馬克が暴落を致しまして、獨逸人は富んで居る者も貧しい者も等しく眞ッ裸體となつて了つたのであります。此様を眺めたヒトラーは——ヒトラーは奧太利の人であります——同志數人と奮起しまして總選舉に臨み、遂に政權を握るや、直ちに國民に呼掛けて言ふのに、西洋文化には根柢に誤りがある。獨逸民族の人生觀にも根柢に於て誤りがある。諸君、遙かに東の方に勃興して居る所の日本國の姿を眺めよ、今から七十年前は彼の國は支那朝鮮と同じレベルの國であつたやうに見えたが、七十年間に驚くべき所の躍進をして、今日は白人文化國を後へに従へるといふ大帝國を築き上げた。諸君は其原動力を知るか、大和民族は家の爲に吾れ存し、社會の爲に吾れ存し、國家の爲に吾れ存すと考へて居る。それ故に家に奉仕し、社會に奉仕し、國家に一旦緩急あらば義勇公に奉ずるといふ人生觀を有つて居るのである。天皇の御爲には生命を奉還するといふ人生觀を持つて居るのである。之を八紘一字の人生觀と申すのである。此人生觀こそ驚くべき躍進日本を生み出したのである。獨逸民族も須らく日本民族を手本として、個人主義人生觀を清算し速かに全體主義の人生觀に還らなければ、明日の獨逸を期待することは出来ないぞと呼掛けたのであります。

茲に於きまして獨逸民族は初めて愕然と驚き驟然と悟りまして、男は十四歳以上、女は十八歳以上悉くヒトラーの青年團に入り、無償の勞働奉仕を願出たのであります。此無償勞働奉仕の力に依りまして、國內の不毛の地は悉く耕され、自動車専用道路は今や四千哩に達せんとして居るのであります。又國內には運河が縱横に掘られ、尙工場といふ工場には悉く軍需品を注文致しまして、陸には既に三十五箇師團十二軍團の軍隊を備へて佛蘭西を抑へ、海には大潜水艦を造り上げて英國を抑へ、更に空には數千臺の飛行機を備へて、完全に空中を制壓したのであります。さうして纏てソヴィエツト聯邦に一撃を與へんと準備最中であるのであります。此勇ましき獨逸の姿は皆日本を手本にして現はれたものであります。

再び歐洲戦直後の事情に話を戻します。歐洲の大戦終結を見るや猶太人が長い間考へて居つた所の國際聯盟といふ機關を、米國のウイルソン大統領の手に依つて作り上げたのであります。是は何であるか、英國といふ將軍を載いた所の一つの幕府であります。何の爲に斯くの如き幕府を作り上げたかといふと、白人プロックを以て日本の勃興を抑へる爲であります。日本ばかりではありませぬけれども主として日本を目指して作られたものであります。然るに我國は莫大の費用を投じて其常理事國の一に納つた譯であります。而も是の如き機關に依つて我れを抑へるばかりでなく、千九百十六年歐洲大戦の末期に於きまして亞米利加合衆國は海軍の大々



的の擴張をやつたのであります。之に對しては我國も相當の武力を持たなかつたならば太平洋の浪を鎮めることが出来ませぬから、例の八八艦隊の建設に取掛つたのであります。初め英米は我國の艦隊の建設に付ては軽く見て居りましたが、其中に世界にない所の三萬五千噸の陸奥、長門が十六吋砲を積んで現はれまするや、非常に驚きまして、能く／＼我國の造艦計畫を見るに船臺の上には、もつと大きな四萬噸から五萬噸に達せんとするやうな大きな艦がキールを据へて、建造中の艦が澤山ある。是等が竣工して眞の八八艦隊が出来上つたならば、こゝに驚くべき力を持つ所の海軍が現はれるといふことを看まして、急速に大正十年十一月に華盛頓會議を開きまして、我が主力艦と航母艦を彼の六割に制限をなし、尙日英同盟を廢棄して九ヶ國條約を以てし、青島を無償で支那に還へさせて了つた。是が即ち華盛頓會議の結果なのであります。

然らば此九箇國條約といふのは何であるか、簡単に申しますならば、英米のお許しがなければどんな事が起らうとも、一兵をも大陸に出すことが出来ないといふ條約であります。斯くの如くにして我が大和民族の發展をすつかり封じて了つたのであります。我國は此儘で引退する譯には行きませぬから、色々考究の結果、例の一萬噸八吋砲巡洋艦と潜水艦隊とを造りまして、此缺陷を補はうとしたのであります。然るに此狀況を見た所の支那は日本與みし易し、英

米に向つては何事も出かさぬ國であるといふので、毎日排日の氣分が此時以來猛然として起つたのであります。昭和二年には例の南京事件が起りました。我が領事館は陸海軍の軍人と共に大侮辱を蒙つた。而も時の外務大臣は何にも言はなかつたのであります。

然るに我が國に於ては華盛頓會議が成立すると、日本の新聞は皆喜んだ。世界三大國の一に日本は納つた。世界平和に貢献した。偉いものであるといふやうなことを言つて、自慢をして居つたのであります。大正十二年には關東大震災といふ天の譴めを蒙つたのであります。而も我が國民は滔々として眠から醒めない。享樂に是れ耽つて、國家の大事を等閑に付して居た。昭和五年倫敦會議に於きましては、取つて置き我が一萬トン八吋巡洋艦は彼の六割と制限され、潜水艦隊も五萬噸と制限をされて了つたのであります。潜水艦は我が國人に適した兵器でありまして、英米のやうな享樂的の民族には中々使ふことが出来ない。さういふ特殊の兵器を制限して了つたのでありますから、流石の大和民族も腕を折られ足を挽かれて、起つて戦ふことが出来なくなつて了つたのであります。然るに幸なる哉其翌年の昭和六年九月十八日、滿洲事變が起りまして、大和民族は大陸の一方に血路が開かれたのであります。續いて五・一五事件が起つて政黨政治は終末を告げて了つたのであります。亞米利加も英吉利も是ではいけないといふので、直に國際聯盟の會議を開いて、四十二對一を以て我國の行動に反對をして來た

爲に我國も遂に國際聯盟から離脱する事になつた。離脱を致しますると直に制裁が下つて來た。どんな制裁かといふと、經濟封鎖でありました。尙亞米利加の艦隊は大西洋から全部太平洋に回航せられ、布哇の眞珠港に集つて居たのであります。一艘の航空母艦はダッチハーバーに出て居つた。又一艘の航空母艦はサモアに出て居つたのであります。さうして鳳翼の陣を張つて居つた。彼の東洋艦隊は英國の東洋艦隊と共に上海に集つて居ることは、今も猶昨の如きものがあるのであります。山雨來らんとして風堂に滿つるといふ危険な状態の下に曩の上海事件は展開されたのであります。併し聯盟總會が開かれる前に停戰協定が成立しましたものでありますから、事なく濟んだものであります。併し此合衆國の艦隊が實際に我國にやつて來なかつた所以のものは、當時の我が聯合艦隊の力が合衆國艦隊の八割以上であつたからであります。此苦がき經驗を持つた合衆國も英國も、實際に六割以下に我國の艦隊を抑へ付けるのでなければいざといふ時に口が利けない。それ故に爾來再び倫敦會議を開きまして、華盛頓條約、倫敦條約有効期限の延期を希望したのであります。我國は之を辭退しまして、兩條約共御承知の通り一昨年十二月の末日を以て廢棄となつて了つたのであります。

爾來我國と英米の間に於きましては造艦競争の最中でありました。其中に支那事變が起つたのであります。米國はヴィンソン案或は失業救済の費用を投じまして恐しい造艦をやつて居るの

であります。是が今から五六年經ちますと完成するのであります。英吉利は昨年新に十五億磅、日本の金に換算しますれば、二百五十億萬圓であります。五ヶ年計畫を以て海陸空軍の大擴張をやりました、其大半を割いて新嘉坡に持つて來る積りであります。更に露西亞に對しまして佛蘭西と共に四千萬磅宛を貸しまして、主に浦鹽艦隊を造らして居るのであります。今浦鹽には潜水艦隊が六十艘以上あるかと思ひます。其上に此艦隊が整備致しますると、我國としても日本海に相當の艦を割當てなければならぬことになると思ひます。是は皆倫敦會議の仇を討つて居るのであります。我國を彼の六割勢力にする爲に、即ち我が兵力を劣勢たらしめん爲に浦鹽艦隊を整備さして居るのであります。

(以下軍機に關する事項を省略す)

さうして英國自身も亦東洋に於ける軍備を大に充實致しまして、合衆國艦隊と相對應して日本の海軍を制しようとして居る譯であります。

英國といふ國は如何なる國であるかといふと、是は長い間世界を統制して居つた所謂將軍の國であります。どうして世界を統制して居つたかといふと、海外に領土を持つて居るばかりでなく、此國民は最も世界の大勢に通じて居る。外の事は餘り偉くありませんけれども、世界の大勢に付ては能く通じた國民であります。何時でも自分の敵は何處の國であるかといふことを

見出す。さうして其國を孤立無援に陥れて、他の國の力を借りて次々と滅して来たものであります。斯くの如くにして西班牙を打ち、和蘭を破り、ナポレオン一世を滅し、獨逸帝國を敗かしたのであります。今や彼の敵は何處であるか、獨逸よりも伊太利よりも彼の目指す眞の敵は日本であるのであります。其れ故に彼の政策が猶太人の政策と一致しまして、相共に呼應して支那に進出して居る譯であります。即ち日本を攻略するといふことは、直接攻めて来るのではなくして、支那さへ自分のものにして、了らば此國は倒れます。此國を直接に攻める必要はない。支那を自分のものにして、了らば日本は倒れる、だから今日の支那の事變といふものは日本の興廢の岐れる事變であるといふことが分るのであります。英國は皇室からどうも猶太に近い。クイン・ヴィクトリアといふ方は非常に猶太人を重用されました、彼のビーコンズ・フィールド・ヂスレリーの如きも猶太人であつた。彼は女王に重用されて非常な辣腕を發揮しまして、スエズ運河會社の株式を手中に收めて、是が爲に英國は地中海を制して居る譯であります。其他幾多の猶太人が用ひられました、其結果英國の貴族の中には今日多數の猶太人が居るのであります。彼のドラモンド卿なども猶太人であります。それから英國のロスチャイルド、是は財界では一番の親玉であります、是も猶太人であります。今のネビル・チエンバレンといふ總理大臣も猶太人に親密な人であり、それから外務大臣のアンソニー・イーデンも猶太人といつて宜い人

であります。彼のヒュウゲツセン公使も猶太人である。又亞米利加や佛蘭西の上海に居る公使も猶太人である。どうも猶太人は支那人に受けが宜いので、各國共支那駐劄の外交官には猶太人を使つて居ります。それであるから今上海には猶太人が多く来て居ります。

是は此前にもお話ししましたから要點だけに致しますが、上海にはさういふ猶太財閥が巢をくつて居ります。此財閥の爲に躍らされて居るのが南京政府であります。浙江財閥の如きはやはり猶太財閥の一小部分に過ぎない。殆ど力はありませんが、此財閥の一番の代表者が宋子文であります。宋子文も蒋介石も皆姻戚關係を有つて居る。ですから南京政府は蔣閥族の政府であります。さうして是等の人々は少くも五千萬元、宋子文などは一億萬元以上の金持ださうであります。其金は皆外國の銀行に預けて、自分自身も平生は愛國團體からの襲撃を恐れまして、上海の租界に大きな邸宅を設けて、其處に住まつて居るといふ譯であります。それからサツスンといふ人が猶太財閥の親方でありますが、此人は別にアーノルドといふ商會を作つて居りまして、其會社がソ聯邦の軍需品販賣の代理店をやつて居ります。だから猶太財閥とソ聯邦とは相通する所があるのであります。

露西亞は如何なる國であるか、是は此前お話ししたかも知れませぬけれども、露西亞は千九百十九年にレーニンに依つて革命が起りました、さうして兩面一體の蛇の國となつたのであります。

す。其の面はどんな面かといふと、片方の顔はソヴィエツト聯邦政府であります。片方の顔はコミンテルンといふ顔であります。コミンテルンは即ち第三インターナショナルの略語であります。露西亞語は非常に長いものですから皆略語を使ひますが、之を日本語に略したならば國際共產黨であります。第三インター・ナショナルがあるのとありますから、第二インター・ナショナルもある譯でありまして、其第二インター・ナショナルといふのが今日の人民戦線の主體であります。それはどういふものかと言ひますと、自由主義、民主主義、社會主義、議會中心主義といふのが、是れであります。第一インター・ナショナルはマルクスが作つたものであります。是は今日は有名無實であります。今は専ら第三インター・ナショナル即ちコミンテルンが活動して居るのであつて、是が二年置きに總會を開いて、さうして世界を指導して居るのであります。第七回目のコミンテルンの大會が一昨年夏七月から八月にかけモスコイに開かれて五十有餘箇國の代表が集つたのであります。日本からも代表が出て居たのであります。此大會の決議が今回の事變に密接不可分の關係を持つて居るのであります。御承知の通り此決議は、「今迄第三インター・ナショナルは第二インター・ナショナルを敵に廻して居つたけれども、今後は第二インター・ナショナルは自分の味方として、敵はファツシヨ國である。語を換へて言へば西には獨逸、イタリー、ポーランドあり、東には日本あり」といふことを明に

したのであります。是が第七回目の國際共產黨の大誓言、決議であつたのであります。

斯くの如くして其決議は直に實行に移されました。西に於ては人民戦線といふものが作られ、東に於ては抗日人民戦線といふものが出来たのであります。此コミンテルンが千九百十九年に出来たと同時に、中華民國にも共產黨が出来たのであります。如何にコミンテルンが世界中に於て支那が最も赤化し易い國として、支那を主目的にして居るかといふことが分るのであります。又歐洲の人民戦線は直に獨逸の隣國の佛蘭西の總選戰に策應しまして、ブルムといふ猶太人を首班とする人民戦線内閣を作りました。此ブルムといふ人は佛蘭西の共產黨の首領でありまして恐しい金持であります。千萬長者でありまして二百五十萬圓もする純金の食器を用ひるといふやうなブルジョアであるのであります。此ブルジョアのブルムが初めて猶太人として佛蘭西の總理大臣となつたのであります。今や此ブルムが送りまして、もつと左傾的のシヨータン内閣になつて居るのであります。是が爲に國內の富豪は皆銀行に金を預けることを拒みまして、或者は米國に財産を逃避し、或者は地中に埋藏するといふ有様であります。是が段々左傾しますと、頃合を見計らつて共產黨が乗込んで人民戦線を乗取つて、純然たるコミンテルンの專制國を作り上げるのであります。けれども今はまだ佛蘭西の内閣には共產黨は入つて居りませぬ、詰り露西亞は共產國にあらずして、純然たるスターリンといふ專制王を載い

た所の、人類の歴史に於て未だ曾つて現はれなかつた極端なる専制王國であるといふことが分るのであります。此極端なる専制王國を築く爲に猶太民族が片方に共產主義といふ恐ろしい武器を持ち、片方に資本主義といふ莫大なる金力を持ち、此兩方の武器に依つてソ聯邦といふ專制國を作り上げたのでありますが、是が爲には二十萬人といふ人間を殺して居るのであります。昔ネロといふ暴君が羅馬に出ましたけれども、此暴君でも十萬人の人間も殺して居りませぬ。然るにレーニン、トロツキ、スターリンといふ暴君は二十萬人といふ露西亞人を殺して、自分分は王侯の位に即いて居るのであります。而も彼の名は何といふかと申しますと、書記長といふ名である、不思議な王の名前であります。此王様から派遣された所の大公使は全部猶太人です。其外務大臣リトビノフは非常な悪黨でありまして、帝政時代には長い間終身懲役で牢屋に入つて居つた。彼はどの位悪い事をしたか分らない。革命勃發當時此人の部下がニコラス陛下の御一家を惨殺したのであります。それ故に此間の英國皇帝の戴冠式に、こんな悪黨が秩父宮と御同列で参列したことを英國の新聞には悪口を言ふたものがありました。それは全く其通りであらうと思ひます。こんな人が外務大臣でありますから、廣田さんなどの力では手に餘る譯であらうと思ひます。悪黨には悪黨を以てしなければならぬのであります。(笑聲)

露西亞の官吏二百三十五萬人の中百七十五萬人が猶太人です。ゲー・ペー・ウーは猶

太人の獨壇場であります。それから赤軍の首腦部の中にも大分猶太人が入つて居ります。此間の色々の内訌は猶太人と露西亞人との民族的の闘ひであつて、前にはゲー・ペー・ウーの頭が殺された、その復讐として元帥が殺されたのであります。スターリンは兩方の民族の中間に立つて居る眞に狡い男である。彼は高架索の山男でありまして、人を殺すことなどは何とも思はない冷酷な野蠻人です。此人が自分の同輩を次々と殺して、トロツキなども外國へ追放して、今の地位を勝ち得たのであります。だからいつ何時此人も殺されるかも知らぬ。今は元帥が殺されたばかりでなく、何萬といふ人が殺されて居りますから、極東軍の司令官のブリユツヘルも危かつたのであります。併し彼はスターリンに忠誠を誓ひました。さうして彼は今や外蒙古に来て居るやうであります。彼は忠誠を證すべく外蒙古で功勳を建てようといふのであらうと思ひます。さういふ情態でありますから、露西亞は今外戦には手が出ませぬ。併しいつ迄も出ないといふことちやありません。此處六箇月か八箇月の間は手が出ないと見るのが本當ぢやないかと思ひます。けれども出て構はない。我國はそれに備へて居るのでありますから、來たら之を叩くだけであります。どうせ是は叩かなければならぬ國でありますから、叩く積りであります。それ故に支那の方へ派遣の兵が少し少ない譯であります。今黒龍江は水が一杯流れて居りますから、之を大軍が渡ることは、十一月頃迄は難しからうと思ひます。

それから支那の武器はどうして居るかといふと、是は御承知の通り米國や英國や佛蘭西や露西亞その他から來ると思ひます。今迄は浦鹽から上海に定期船があつた。其爲に浦鹽から來たのでありますが、今は海岸を封鎖されて來られない。そこで今度は陝西省を経て陸路から來る。併し是は中々容易でない。一千臺の自動車を以てしても三千噸位の物しか運べない。即ち一千臺の自動車も三千噸の船一艘に如かないのであります。眞に海運といふものは大事なものでもあります。隨て日本の海國であるといふことが非常に大事な點であるのであります。陸上の運輸の力といふものは海運とは丸で比較にならない。さういふ譯で露西亞も思ふやうに武器を運搬することが出來ない。それのみならず西班牙が今内亂でありますから、主にそちらの方に力を注いで居ります。

それから彼等は更に人民戦線を西班牙に作りまして、あの通りの内亂を作り上げた。今西班牙は國內が全く二つに分れました。北の方の部分は伊太利と獨逸の同盟、南の方は露西亞と佛蘭西の同盟軍が相對峙して居る。本當の西班牙の國軍といふものは第二線に退がつて居る譯であります。さうしてスペインはもうどつちにしても助からない。今や西班牙から第二の世界大戦が燃え猛つて居ると見るのが本當である。是は誰がしたか、皆コミンテルンの魔手が斯ういふ驚くべき事をやつて居るのであります。さうして双方に兵器を賣つて居るのは猶太の軍需會社

でありまして莫大な利益を得て居る。支那に兵器を賣付けて居るのも皆猶太の軍需會社であります。此西班牙の内亂を其儘支那に以て來ようといふのが、彼のコミンテルンの計畫であります。即ち抗日人民戦線であります。何故抗日といつたか、支那人に人民戦線と言ひましても分らない。無學文盲の人が多くて新聞すらも讀むことの出來る人は極めて少ない。けれども抗日排日と言へば三歳の童子と雖も知つて居る。小さい時から徹底的に抗日排日の教育を受けて居るから皆能く知つて居る。排日とは經濟斷交であり、抗日とは國交斷絶であります。三歳の童子でも、日本人と見れば女、小供でも赤ん坊でも俱に天を戴かざる仇だといふ教育を受けて居るのであります。軍隊が射撃するのには必ず日本帝國主義打倒と書いてある。さうしてそれに命中弾を射つた場合には、日本人を一發で打倒して了つたといつて居る。さういふ風に彈丸一發も粗略にしない、一つ一つの彈丸に精神を籠めて教育をして居る。恐しい教育であります。唯敵といふ言葉は使ひませぬ、必ず日本といふ言葉を使ふ。それ故に通州と同じやうに天津も北平も我が居留民を襲しにする積りであつた。上海に於ても三萬の居留民と共に陸戦隊三千名を襲しにする計畫があつたのであります。其計畫は何處で發見されたかといふと、此間支那の飛行機が不時着をしました。其不時着をした支那將校は頗る勇敢な人であつたと見えて、落下傘で降りて來る途中でピストルを以て近づく日本兵を射撃しながら降りて來た。已むを得ず是

は射殺をしたのでありますが、其將校のポケットから二十萬の大軍を以て上海在留日本人の鑿しの計畫書が現はれた。それには軍艦や商船を撃沈する計畫もちやんと書いてあつた。總て水雷や機雷や或は爆撃を以て不意に襲つて撃滅する計畫があつたことが分つたのであります。それを我が少數の陸戦隊で十數日の間守り了うせたといふことは、實に奇蹟的の幸運と言はなければならぬのであります。三歳の兒童の時からさういふ風な排日抗日の教育を受けまして、それが今日は二十六歳にも達して居るのであります。それ故に青年といふ青年は悉く排日抗日といへば直にびんと來るのであつて、日本人なら赤ん坊でも必ず殺さなければならぬといふやうに、深く／＼心の中に込み込んで居る。それ故にコミンテルンは抗日人民戦線といつたものでありまして、さうして直ちに抗日人民戦線が作り上げられたのであります。

其時に現はれたのが西安事件であるのであります。西安事件は蔣介石が學良に命じて共産軍を征伐にやつたが、學良は共産軍を本當に征伐すると自分の軍隊を減じますから、好い加減にやつて居つた。そこで蔣介石は自分が戦線に乗込んで所謂督促をした。そうするとあの通り監禁されたのでありますが、實は是は共産軍の爲に監禁されたのであります。何の爲に共産軍が彼を監禁したかといふと、彼の生命が欲しいのではない。金と條件が欲しかつたのであります。それ故に七千萬元といふ夥しい身代金を取つて居ります。さうして尙其上に三箇條の條件が附

けられた。其一つの條件は共産主義を三民主義の中に入れること、即ち純然たる共産政府になる譯であります。第二は共産軍を中央軍に入れる。第三は本年の五月から十月迄の間に日本に對して開戦をする。是であります。此三箇條を實行に移さん限りに於ては蔣介石の生命はありませぬ。蔣介石は否でも應でも之を實行に移す場合になつた。そうしてスターリンからの指令が來まして、遂に露西亞との間に不可侵條約迄結んだ。今や南京政府は純然たる共産政府となり。共産軍は立派に中央軍の中へ入つて居る。共産軍は今何處に居るかといふと、丁度山西省内に集つて居るやうであります。此間日本軍が占領をした山西省の大同の附近に主力隊が三萬其他合せて約十萬の兵隊が集つて居る。其外の共産軍は津浦線の方に出て居るものもありますし、或は綏遠の方に出て外蒙古軍と聯繫を取つて居るものもあります。是は露西亞と直接聯繫して居るものであります。それ故に我が軍隊が先づ北の方をやつた譯であらうと思ひます。所謂我軍の戦法は綏遠を掃蕩しまして、大同を占領し、更に下つて太原を占領するならば、太原は山西省の主都でありますから、之に依つて山西省全般を占領することが出来るのであります。併し今は丁度雨季が終つた時でありまして、北支那は全部水浸りであります。鐵道線路だけが僅かに通れるだけで、あとは非常に難儀であります。其爲に我軍の攻撃も思ふやうには進めにくかつたのであります。けれども近頃は段々水が引いて居りますから、漸く戦局の推移も

活潑になつた譯であります。併し逃足が如何にも早い支那軍のことでもありますから、今度も一度涿州の野に於て非常な包圍態勢に陥つたのであります。が到頭逃げて了つた。それから又此度は保定の戦に於ても逃がして了つた。一萬人位の死傷はあつたやうでありますけれども、逃足が如何にも早いので大部分を逃がした。此逃足の早いことに付ては支那獨特のものがあるのであります。之を飛行機で見ましても、森林の中に隠れて了ふので見えなくなる。それで追撃も中々思ふやうに行かない譯であります。併し黄河の線まで行けば、黄河の鐵橋は津浦線と平漢線しかありませんから、其處迄追撃されれば、もうあれを渡ることが出来ませぬから、彼處で殲滅されて了ふのぢやないかと思ひます。

兎に角中央軍はどの位出て居るか能く分りませぬが、私の想像する所に依りますと、六十萬人以上は隴海線以北に出て居ると思ひます。それ等の軍隊を全部殲滅しなければならぬと思ふ。併し北黄河の線、或は隴海線以北の北支那の線は片付けても揚子江を渡ることが出来ませぬ。揚子江は河でなくて海であります。橋は一つも架かつて居ない。是は大軍が中々渡れないから、揚子江以南の戦線は上海から上陸したものでなければ行けない。それで北支と上海と兩方に分れて殲滅も行はれやうとして居る譯であります。之に對して日本軍が如何なる作戦を行ふかといふことは、世界中の人が注意をして見て居るのであります。非常に面白い戦争なのであ

ります。どういふ風にして此廣大な土地に於て大軍を殲滅することが出来るか、ナポレオン一世がモスコーに入つて泥田に足を突込んだやうになつては大變である。併しさういふことは考へ得ないと思ふ。やはり急所がある。一番の急所は全海岸を封鎖したことであります。此封鎖に任じて居る海軍は非常な苦勞をして居るのであります。もう非常に荒れる季節でありますから怒濤と闘ひ、天候と闘ひ、さうしてあのジャンクと戦争をする。ジャンクは中々丈夫なものであります。非常に厄介なものです。さういふ困難なことをやつて居るのでありますから、早く大本營が出来宣戰を布告して貰はないと此仕事が多過ぎて効果が洵に少ないのであります。宣戰を布告すれば、英國の商船であらうが、亞米利加の船であらうが臨檢拿捕が出来ますから海軍の作戦は非常にやり良くなる。今はまだ戦争でない、唯の事變でありますからやりにくい日本の戦ひはこそくやる戦ひではない。何を恐れてこそくして居るのでありますか、今はもう速に宣戰を布告すべきものであらうと思ふのであります。

併し兎に角全海岸を封鎖して居りますから、是は何といつても支那に取つて致命傷であります。唯香港の所が空いて居つた。此處から物資が入つて居りますので、今廣東を連日爆撃をして居る譯であります。尙粵漢線を今迄放つて置いたのは外國人、主に亞米利加人の避難するのを待つて居たので、之を皆避難さしてからやる積りであつたのであります。所がそれが二十六



日迄に全部引上げましたので、あれを全部破壊して了りました。それでありませうから、もう支那全海岸から内地へ入る口は無くなつて居るのであります。其上に海岸に在る無数の島々も全部日本の海軍が占領を致しましたから、全く入口を封鎖されて了つた譯でありまして、是が非常な致命傷であります。

尙南京とか、漢口とか、南昌とか、廣東とかいふ要地を爆撃されるといふことは、是亦彼に取らして致命傷であります。實は南京を爆撃した飛行機は中攻といつて居る海軍取つて置きの中型攻撃機でありまして、此中攻機が數千軒の往復を致しまして南京や漢口を爆撃をしたのであります。而も一箇月の間に七十四回の爆撃をして居ります。之を歐洲大戰當時に獨逸が英國を四箇年の間に五十四回爆撃をしたことに比すると、如何に我國の爆撃が頻繁に行はれたかといふことが分るのであります。而も支那海特有の悪天候を突破して數十回の空襲をしたといふことは、世界空前であります。是は正に平素猛烈な訓練をした結果でありまして、而も其勇士は皆若い人達であります。少年航空兵であります。隊長は居りますけれども、あとの飛行機に乗つて居る者は皆若い人ばかりです。それらの若きパイロットが如何に身命を惜まらずやつたか、是は即ち生命奉還といふことに繋つて居ります。

天皇から戴いた生命である。國家危急の場合に於ては此生命を天皇様に奉還しなければなら

ぬといふので、若い人達は皆勇み進んで生命を奉還しつゝある、此生命を賭しての働きがあれだけの功勳を擧げて居るのであります。而も歸つてからも功を誇らず、又内に於ては整備員が晝夜兼行に、若しも自分の整備する飛行機に發動機等の故障があつては大變だ。機械の故障の結果、途中で壯途を挫折させては相濟まないと、三晝夜も寝もやらずぶつ通しに働いて居る。此機關部員の功績も亦見逃してはならぬのであります。是等の出でて戦ふ者と、内に於て機械を整備する者とが、しつくり揃つて、さうして總て國の爲に身命を献げてやつた爲に、あの大きな手柄を現はしたものだと思ふのであります。

此間私は北支那に居る兵士からの手紙を見ましたが、其手紙の中に、毎日々々鹿島香取の神様が姿を現はされると書いてありました。鹿島香取の神様は申す迄もなく天照大神様が我國に特にお遣しになりました武神であります。其神様が夜な／＼皇軍の枕邊にお出ましになるといふことは、私は是は唯夢物語りでなくして、現實であると思ふのであります。皇軍には何千何百萬の祖先の靈が背面に於て守つて居るのであります。歴代の神明の加護が降つて居ることを確信して疑はないのであります。此信念に依つて闘つた爲にあの鬼神も恐れるやうな立派な働きが出来たものではなからうかと思ひます。此間も日々新聞の記者が上海戰場から歸つて來て報じて曰く、戰場に行くと彼方にも此方にも水兵が息も絶え／＼になつて、當に眠ぜんとして

辛じて「天皇陛下萬歳」の聲が聞えるかと思ふと、微かに「お母さん」と呼び掛けて居る。此聲を聞いて何とも堪らなくなつて、思はず其處に立止まつて泣伏したといふことであります。皇軍の強いといふことは我が國柄の然らしむることでありますけれども、其國體に依つて養はれた所の家族國家、其家庭の清らかなる母の力が、斯くの如き勇士を産み成したものであるといふことを考へました時に、如何にも人間といふものは自分だけで以て成長、立身出世をしたやうに考へることは實に相濟まぬことであるといふことが分ります。さうして自分が今日在るのは天皇様の御力であり、兩親の御力に因るものであることを考へました時に、始めてそれ等の方々に對して御恩報じをしなければならぬといふ所謂報恩の念が起つて來る。其報恩感謝の念こそ日本人が昔から持つて居る所の人生觀でなければならぬと思ひます。

此人生觀に依つて皇軍は勇ましく外に働き、内に於ては國民が一致團結一丸となつて、天皇を翼賛し奉つて居るのであります。此姿勢を崩さないで居るならば如何なる國と雖も、此團結の如く立ち上つた我國には一指も觸れることが出來ませぬ。けれども密かに魔軍が入つて居りますので、萬々一にもそれ等の者の魔手に依つて思想的に、彼の獨逸が最後の五分間に於て崩壊したやうな轍を履むやうなことがあつたならば、それこそ折角生命を捨てた皇軍に對しましても眞に相濟まないことになるのであります。

此戦ひは何時迄續くか、それは分りませぬけれども本戦はさう長くなく終ると思ひます。さうして助戦となりませう。まだく、やる所は澤山あります。浙江財閥の在る所の此方面も中々やりにくい所でありませう。租界が近いから、うつかりすると故障が起る。それから浦東の方面もやらなければならぬ。此間亞米利加の商船が支那の飛行機を十九基か積んでやつて來るといふ報があつた。そこで日本の海軍はやつて來たら捕へてやらうと待ち構へて居りました。所がそれが分つたものですから亞米利加も非常に驚きまして、大統領令を以て其出港を止めた。今亞米利加は法律を制定しまして、日支紛争の中に介入することを極端に避けようとして居ります。併し是が助戦となると、如何なる戦争になつて來るか分りませぬ。或はどんな國が介入して來るかも知れない。それに對する備をしなければならませぬけれども、其備の中で一番大切なことは國民の團結であります。

世界は何を恐れたか、皇軍の勇武絶倫のことにも恐れをなして居りますけれども、それにも増して恐れたのは我が國民の團結力である。今回も日本國民が赤ん坊まで起ち上がったことに付て、非常な脅威を感じたのであります。其脅威を何時までも持續させなければならぬのであります。どうか諸君も其お積りで以て、此國民團結の力を永遠に保持するやうに、益々お働き下さらんことを御願ひする次第であります。

餘り長くなりますから私の話は是で終りと致しまして、時間がありましたならば何か御質問に御答致したいと存じます。(拍手起る)

(終り)

昭和十二年十一月二十日印刷  
昭和十二年十一月廿五日發行

非賣品

發行兼編輯人 辻

信 一  
東京市芝區新橋二丁目三〇番地

印刷人 中

山 廣 元  
東京市本所區平川橋四丁目八番地

印刷所 中

山 印 刷 社  
東京市本所區平川橋四丁目八番地

發行所 明

朗 會 本 部  
東京市芝區新橋二ノ三〇中和ビル  
電話銀座一八五番 五〇一一番  
振替口座東京一三八四七八番

終

